

U003-P02

会場:コンベンションホール

時間:5月26日 16:15-18:45

## 金星探査機・地上分光観測結果と放射輸送計算による金星雲構造の検討 A plan to study the Venus cloud structure based on the several Venus observations

高木 聖子<sup>1\*</sup>, 岩上 直幹<sup>1</sup>

Seiko Takagi<sup>1\*</sup>, Naomoto Iwagami<sup>1</sup>

<sup>1</sup> 東京大学大学院理学系研究科

<sup>1</sup>The University of Tokyo

金星は約 30 km にも及ぶ厚い濃硫酸の雲で一様に覆われている。金星の雲は非常に分厚く、下方まで含んだ雲の高度情報を得ることは困難であるため、雲に関して不明な点は数多くある。現在の雲に関する知見の大部分は、かつて打ち上げられた数少ない降下プローブ (Venera・Pionner Venus など) によって得られたものである。それらの観測結果を元にいくつかの金星雲モデル (光学的厚さの鉛直分布) が作られている。現在最も広く用いられている雲モデルとして、Pollack et al.(1993) が挙げられるが、この雲モデルは局所的な雲モデルであり金星全体の雲を反映するものではない。さらに、この雲モデルには改善すべき問題点があることが分かった。

本研究は様々な金星探査機 (Venera, Pioneer Venus, Venus Express) や地上分光観測から得られる観測データと放射輸送計算を用いて雲モデル Pollack et al.(1993) の問題点を克服した広範囲の金星雲モデルを作ることを目的とする。

キーワード: 金星, 雲

Keywords: Venus, cloud